

# 藤原宮



## しくみ

■大島神社 574.805km - 藤原京大極殿 - 大沼浮島574.805km

## 左極

### 大島神社

祭神 湍津姫命・田心姫命・市杵島姫命（宗像三女神）

長崎県壱岐市郷ノ浦町大島

## 中道角

### 藤原宮大極殿跡

694年（持統8年）から710年（和銅3年）までの16年間、都城制を敷いた初めての都で、日本で初めて国家体制が確立された大化の改新（645年）以後、その新しい国家の首都として造営された日本で最初の都市である。持統天皇4年（690年）に着工し、4年後に飛鳥浄御原宮から宮を遷したとある。それまで、天皇ごと、あるいは一代の天皇に数度の遷宮が行われていた慣例から3代の天皇に続けて使用された宮となったことは大きな特徴としてあげられる。この時代は、刑罰規定の律、行政規定の令という日本における古代国家の基本法を、飛鳥浄御原（あすかきよみはら）令、さらに大宝律令で初めて敷いた重要な時期と重なっている。政治機構の拡充とともに壮麗な都城の建設は、国の内外に律令国家の成立を宣するために必要だったと考えられ、この宮を中心に据え条坊を備えた最初の宮都建設となった。

実際の建設は、その後の研究により、すでに676年（天武天皇5年）には開始され（これを倭京と呼ぶ）、宮都が完成したのは遷宮から10年も経った704年（慶雲元年）とも言われ、着工から28年が経過したことになる。以来、宮には持統・文武・元明の三代にわたって居住したが、完成から4年後の708年（和銅元年）に元明天



皇より遷都の勅が下り、710年（和銅3年）に平城京に遷都された。その翌年の711年（和銅4年）に、宮が焼けたとされている（『扶桑略記』、藤原宮焼亡説参照）。

## 右極

### 大沼浮島（沼中）

湖畔にある大沼浮嶋稲荷神社（祭神/宇迦之御魂神）の神池とされ狐の形をしている。沼には大小の葦の島が風や流れに関係なく浮遊し、江戸時代には国の数 32 あり、その動きで吉凶を占っていたとされる。沼は白竜湖とも呼ばれ弁財天が祀られている。大円寺『朝日嶽縁起』（1505 年）によると、朝日岳の麓に御手洗の「大富沼」があると記されている。

白鳳 9 年（681）役の小角（役の証覚・役の行者）が弟子の覚道を連れて出羽路に来た折、大谷川（朝日町大谷）のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60 余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮島稲荷大明神を祀り、弟子覚道を別当（大行院）とし朝日岳修験が行なわれた。建久 4 年（1193）には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。国指定名勝。山形県西村山郡朝日町大沼

**備考**/浮島は、現在は数も減り、岸に付き動かないことが多いが、動く時は流れや風に関係なく意志があるかのように動き回り驚く。役の小角は梵字が書かれた板碑が流れてきたのを見つけたのだから、すでに大沼は異教徒の浮島信仰の地だったはず。稲荷神社の神池とされるが、元々「大富沼」が大沼なら出雲系「富一族」の祀る沼だったのだろう。大朝日岳にも大富観音が祀られていた。元々弁財天や龍神の神池に稲荷神が祀られたのだと考えられる。あるいは、730 年に「大沼社を南西の丘に移す」記述があるが、その時に稲荷社にすり替えられたのかもしれない。いずれにせよ、古いしくみのほとんどが稲荷神社ではなく大沼の鳥居の立つ「出島」が起点となっている。弁財天を祭神とする大沼浮島社（仮称）はここにあったはず。全国に散らばる浮島神社の総本宮ではないか。そして、多くの神社の神池に浮島のごとく島が作られ弁財天や市杵島姫が祀られているのも本来は分社だったのではないだろうか。池に囲まれた古墳すらも浮島に見えてくる。古代史を探る時、きっと浮島信仰は重要な鍵になると思われる。



## 備考

残念ながら大島神社にポイントを合わせると大沼浮島のポイント「出島」から5~10mほど離れてしまった。沼の真ん中に合わせたのか、あるいは藤原宮大極殿の位置が写真と地図ではずれているのが原因かもしれない。大沼浮島と対極にある大島神社の祀る宗像三女神は、元々海人族胸形氏の氏神だったという。渡良三島（大島・長島・原島）は、他のしくみでもつながりが多いので、壱岐の中でも神聖な島だったのではないだろうか。